



輪島市社会福祉協議会

石川県輪島市で 災害ボランティア活動を行いました

活動参加者は、総勢25名

令和7年3月20・21日に災害ボランティアバス事業を実施しました。令和6年能登半島地震及び豪雨災害で甚大な被害を受けた石川県輪島市で市内に在住、在学、在勤の人23名（うち高校生3名）、職員2名を含む、総勢25名で活動しました。

現地では4グループに分かれ、地震による家財の仕分け・処分や、水害による側溝の泥出し、流木の片付けなどを行いました。



被災地の現状



参加した高校生から「依頼者からありがとうと感謝の言葉をもらい嬉しかった」「活動時間が足りず、もっとやりたかった」を感想が寄せられました。

地震から約1年3か月、水害からはちょうど半年でしたが、市内はまだまだつぶれた建物がそのままになっていたり、地震によるひび割れた道路、水害による泥汚れの道路などの様子が見られました。

被災地社協の想い

輪島市災害たすけあいセンター（災害VC）を運営している輪島市社会福祉協議会の担当者は、「テレビなどの報道が少なくなり、被災地はもう復興したと思われるかもしれないが、まだまだ時間がかかります。どうか被災地を忘れず、寄り添ってほしい」とお話されていました。



継続した支援の大切さ



参加者からは「被災地の復旧が想像していたより進んでいなかった。今後も継続した支援が必要だと感じた」「ほとんど報道されていないので、勘違いしていた」との声もありました。

安城市社協は、これからも被災地によりそった支援を続けてまいります。ボランティア活動や義援金など、引き続きみなさまの温かいご支援をお願いします。

